

## 導入事例 「姫路市立美術館」 様

作品：油彩画  
 基底材：木枠にキャンバス  
 サイズ：1140x2000mm 3枚構成  
 作家名：レオン・フレデリック  
 題名：アッシジの聖フランチェスコ  
 制作年：1902年

① 作品正面から右(A)の作品  
 天地：1140mm 左右：416mm

油彩画  
 基底材：麻布に木枠(楔付)  
 制作年：1902年  
 署名：画面右下「Leon Frederic 1902」



修復後の「アッシジの聖フランチェスコ」

## 修復前の状態

ワニス層は見られなく絵具層は全体に亀裂があり作品中央部にカッピングが存在、左箇所中央部に縦の折れ跡が見られる。これは木枠に触れて起きた傷と推測される。それはキャンバスの張りが弱く弛んで起きたのが大きな原因である。作品上の人物像の横に不自然な汚れ幅1mm長さ約5cmが見られる。作品は修復した箇所は見られず制作後100年ほど経過している事もあり表面全体がかなり褐色している。右下部には絵具の欠落が見られる。基底材部分の画布(キャンバス)は劣化し地塗層と前膠層の融合が悪くなっている。木枠に関してキャンバスの張替えの形跡が見当たらないのでオリジナルの可能性が強く、堅牢な状態。

## 修復処置

修復前にデジタル写真撮影並びに4x5インチによるポジフィルムによる記録を行ない赤外線、紫外線による調査を行ったが然したる結果は現れなかった。採寸、耐溶剤検査を行い修復方針を決めた。

## 作品表面に浮き上がった絵具の処置

充填に使用したものはBEVA371(ビニール系熱可塑性接着剤トルエン溶液)を注射器に入れて修復用電気コテと一部シリコンシートを使い、固定定着した。膠水、アクリル系熱可塑性接着剤は水溶性の為に絵具のヒビの箇所・浮き上がりの箇所の末端まで溶剤が入らない結果、BEVA371を使用。

## ルーズライニング

この画布(キャンバス)は劣化していてキャンバスも弛んでいるので、裏打ちは作品を接着剤で固定する方法を取らずルーズライニング方法を選んだ。木枠は比較的堅牢でもありオリジナル性を鑑みこの木枠を利用して最初にベースになる新しい極細(Lascaux-Nr.990)を木枠に張り込む。木枠と麻布の固定はBEVA371フィルムを木枠側面と布面にアイロンで貼り付けステンレス製ステップラー針にて固定した上でのオリジナルの画布をサポートする形で張り固定はBEVA371フィルムを使い先の麻布の固定と同様な方法。

## 作品の洗浄

溶剤テストにより5%アンモニア水とリグロインにて洗浄

人物右横に約6cm幅1mmほどのイエローオーカー色の違和感がある絵具跡があったので蒸留水を綿棒にてテストクリーニングすると除去する事が出来た。結果この汚れは油彩絵具でなく(オリジナルの絵具でない)事が判明し何かの汚れである事の可能性が高く不自然な感じなので除去する事にした。

## 欠損部充填

当初、膠水(5%水溶液)とボローニア石膏にての充填を試みたが固着が悪い為にBEVA371とボローニア石膏との混合物(固形)を修復用電気コテを使い溶解しながら充填しブラッシュマーク等も周囲の絵具と違和感がないようにニードルタイプの修復用電気コテにて整える。

## 保護ニス(2種類)

一層はダマーバニッシュ(溶剤はテレピン精油)、二層目はアクリル樹脂系バニッシュを塗布。

## 補彩

絵画修復用樹脂絵具にて(溶剤はシクロヘキサン)にて補彩。

保護ニス(アクリル樹脂系ニス)にて仕上げ。

導入事例 姫路市立美術館 様  
「アッシジの聖フランチェスコ」

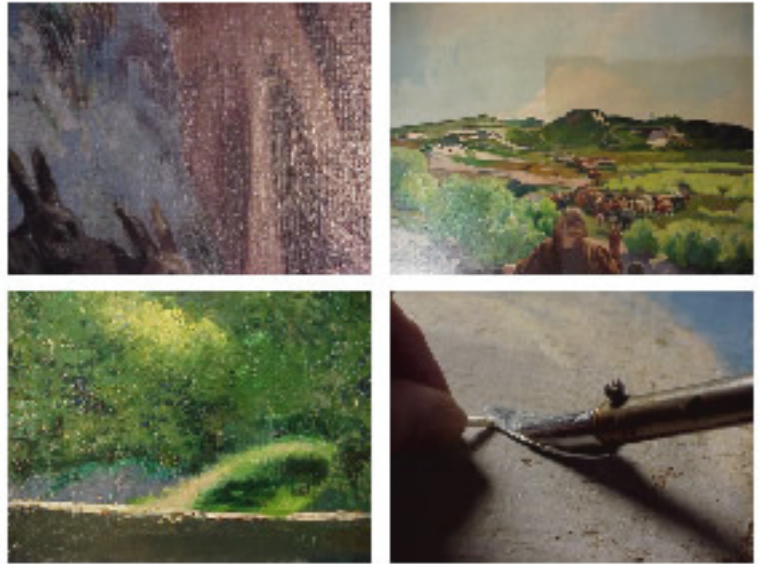
② 作品正面から中央(B)の作品  
天地:1140mm 左右:998mm

油彩画

基底材:麻布に木枠(楔付)

制作年:1902年

署名:画面右下「Leon Frederic 1902」



修復前の状態

この作品は先に修復が施されていて裏打ちはワックス裏打ちでオリジナルの木枠が当たる箇所の画布は裏打ちの際に切り取られて除去されている。

つまりサポートする麻布の表面にオリジナルの作品が貼り合わせられて状態である。ワニス層はあってワニス層の汚れはある。

また先の修復過程に出来た表打ちの紙が表面に一部残っている。

絵具層は全体に亀裂があるが先の修復によるワックス裏打ちで絵具の浮き上がりは押さえられている。ただ1箇所だけ浮き上がりが見られる。絵具の欠落は数箇所ある。

裏打ちされた作品裏面には黴が発生している。

なお、木枠は先の修復(裏打ち)の際にオリジナル木枠は除去されて新調にされている。

修復処置

修復前にデジタル写真撮影並びに4×5インチによるポジフィルムによる記録を行ない赤外線、紫外線による調査を行ったが然したる結果は現れなかった。

採寸、耐溶剤検査を行い修復方針を決めた。

作品表面に浮き上がった箇所の処置

先の修復に使われている材料がワックスタイプの為に今回は充填に使用したものはワックスタイプで修復用電気コテと一部シリコンシートを使い固定着した。

先の修復の際に施された作品側面の紙は除去した。

作品の洗浄

表面にはワニス層がある。

溶剤テストによりトルエンとリグロインにて洗浄。その結果、絵具層の洗浄は先の修復で洗浄されて様子が見られた。

絵具層の洗浄はしない。

欠損部充填

当初、膠水(5%水溶液)とポローニア石膏にての充填を試みたが固着が悪い為にBEVA371とポローニア石膏との混合物(固形)を修復用電気コテを使い溶解しながら充填しブラッシュマーク等も周囲の絵具と違和感がないようにニードルタイプの修復用電気コテにて整える。

保護ニス(2種類)

一層はダマーバニッシュ(溶剤はテレピン精油)

二層目はアクリル樹脂系バニッシュを塗布。

補彩

絵画修復用樹脂絵具にて(溶剤はシキロヘキサン)にて補彩。

保護ニス(アクリル樹脂系ニス)にて仕上げ。

## 導入事例 姫路市立美術館 様

「アッシジの聖フランチェスコ」

③ 作品正面から右(C)の作品  
天地:1140mm 左右:416mm

### 油彩画

基底材:麻布に木枠(楔付)

制作年:1902年

署名:画面右下「Leon Frederic 1902」



### 修復前の状態

ワニス層は見られなく絵具層は全体に亀裂があり、作品右上部に絵具の浮き上がりと剥奪が見られる。

また中央部の下部の箇所も同じ様な状態である。

水垂れと思われる箇所が8本あり、左より2本は上端から下端まで及んでいる。

作品上には小さな絵具の欠落箇所が随所に見られる。

作品全体の汚れは左(A)の作品と同程度の汚れであるが水垂れた箇所はその汚れの箇所が除去された様な感じである。

作品は修復した箇所は見られず制作後100年ほど経過している事もあり表面全体がかなり褐色している。基底材部分の画布(キャンバス)は劣化し地塗層と前膠層の融合が悪くなっている。画布裏面は水跡が見られる。

木枠に関してキャンバスの張替えの形跡が見当たらないのでオリジナルの可能性が強く、堅牢な状態。

### 修復処置

修復前にデジタル写真撮影並びに4x5インチによるポジフィルムによる記録を行ない赤外線、紫外線による調査を行ったが然したる結果は現れなかった。

採寸、耐溶剤検査を行い修復方針を決めた。

#### 作品表面に浮き上がった絵具の処置

充填に使用したものはBEVA371(ビニール系熱可塑性接着剤トルエン溶液)を注射器に入れて修復用電気コテと一部シリコンシートを使い固定定着した。

膠水、アクリル系熱可塑性接着剤は水溶性の為に絵具のヒビの箇所・浮き上がりの箇所の末端まで溶剤が入らない結果、BEVA371を使った。

#### ルーズライニング

この画布(キャンバス)は劣化していてキャンバスも弛んでいるので裏打ちは作品を接着剤で固定する方法を取らずルーズライニング方法を選んだ。木枠は比較的堅牢でもありオリジナル性を鑑みこの木枠を利用して最初ベースになる新しい極細(Lascaux-Nr.990)を木枠に張り込む。木枠と麻布の固定はBEVA371フィルムを木枠側面と布面にアイロンで貼り付けステンレス製ステップラー針にて固定した上でオリジナルの画布をサポートする形で張り固定はBEVA371フィルムを使い先の麻布の固定と同様な方法。

#### 作品の洗浄

溶剤テストにより5%アンモニア水とリグロインにて洗浄。

人物右横に約6cm幅1mmほどのイエローオーカー色の違和感がある絵具跡があったので、蒸留水を綿棒にてテストクリーニングすると除去する事が出来た。結果この汚れは油彩絵具でなく(オリジナルの絵具でない)事が判明し何かの汚れである事の可能性が高く不自然な感じなので除去する事にした。

#### 欠損部充填

当初、膠水(5%水溶液)とポローニア石膏にての充填を試みたが固着が悪い為にBEVA371とポローニア石膏との混合物(固形)を修復用電気コテを使い溶解しながら充填しブラッシュマーク等も周囲の絵具と違和感がないようにニードルタイプの修復用電気コテにて整える。

#### 保護ニス(2種類)

一層はダマーバニッシュ(溶剤はテレピン精油)

二層目はアクリル樹脂系バニッシュを塗布。

#### 補彩

絵画修復用樹脂絵具にて(溶剤はシキロヘキサン)にて補彩。

保護ニス(アクリル樹脂系ニス)にて仕上げ。